

プラネット大学

コース5 金融リスク分析

特定非営利活動法人 プラネットファイナンスジャパン



金融リスク分析

概要

コースの目標

ケース・スタディ

財務分析とは?

誰が財務分析を利用するか?

ツールと理論

1. 情報源

勘定科目一覧表

マルチ・サービス・プロバイダーからの財務レポート

バランスシート

バランスシート：一般的なフォーマット

損益計算書

損益計算書：一般的なフォーマット

キャッシュフロー計算書

ポートフォリオ・レポート

平均計算

年次計算

問題

2. ポートフォリオ・クオリティ

ポートフォリオ・アット・リスク

ライトオフ・レシオ

リスク・カバレッジ・レシオ

3. 効率性と生産性

職員/融資担当者の生産性

借り手一人当たりのコスト

運営コスト比率

その他のコスト比率

問題

4. 収益性と持続性

収益性指標の調整

インフレ調整

資金調達コスト調整

現物寄付の調整

融資の損失調整

ポートフォリオの利回り

資産収益率

資本利益率

利益率

運営自給率

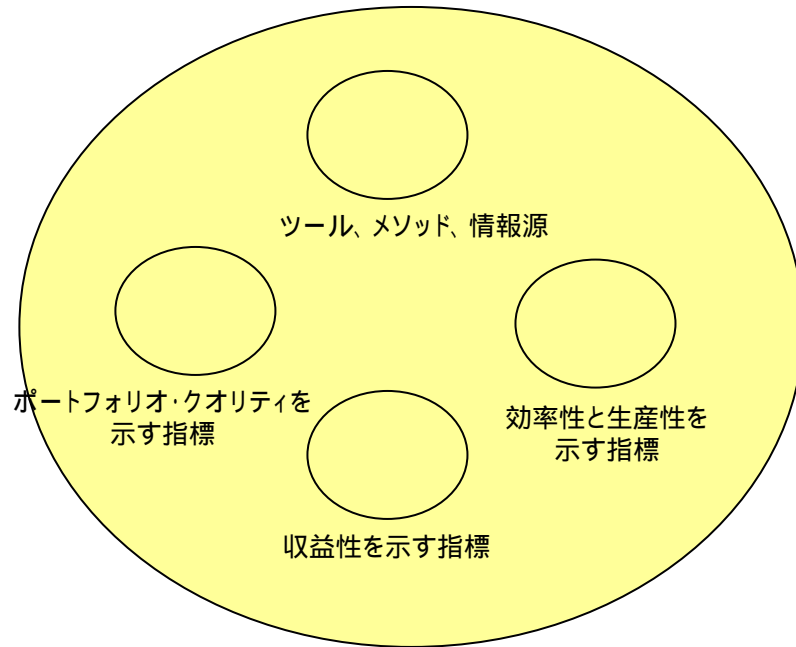
財政自給率

問題

コースの目標

マイクロファイナンス機関(MFIs)は社会的な目標を持って金融サービスを提供する。顧客がそれらの金融サービスを継続的にアクセスできることを保障するために、MFIは長期にわたる組織的、財務的、運営的持続性を確保しなければならない。財務分析はMFIが持続的な財務運営を行うための重要なツールである。

このコースの目的はマイクロファイナンス業界で広く認知されているマイクロファイナンス財務分析の基本を紹介することである。



それぞれの指標は以下の要素と共に示される。

D

概要

F

方法

E

ケース・スタディによる実例

T

指標を分析するためのヒント

ケース・スタディ

このコースではオンラインで追加資料を提供する。**ケース・スタディ**ではマイクロシム (Microsim) という架空の MFJ を紹介している。ケーススタディ*から財務分析レポートを利用し、事例を通じて学ぶ。

*コース実例のデータが入ったエクセル・ファイルはプラネットファイナンスジャパンのWebサイト よりダウンロードして下さい。

マイクロシムの背景

マイクロシムはアフリカで7年間に渡り運営されている女性対象の組合である。この組織ではすべての組合員に対して預金と融資(小規模事業向けと個人向け)を提供している。

組合員は個人で参加しているが、村で保証グループを作る必要があり、このグループは50名程度の女性で組織されている。グループの連帯責任制によって融資の保証がなされる。預金義務は融資を受けた組合員に強制され、融資の返済が不可能な際に利用される。

マイクロシムは多くの女性が小規模の商売、家畜業、その他農村部の農業に従事している地域で活動している。



財務分析とは？

財務分析はMFIのミッションや**対象顧客**ではなく、MFIの内部関係者にとって有益な情報である。

財務分析は以下の点で役に立つ：



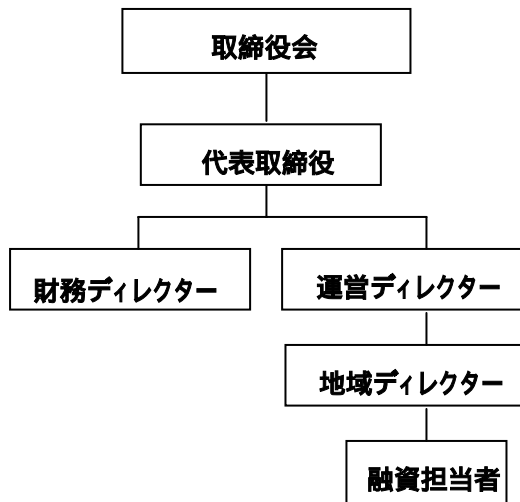
財務分析はMFIの長期的な持続性に関して、2つの重要な問題に答え
てくれる：

MFIが収益性向上に向けて進んでいるか？
MFIが目標達成に向けてどの程度効率的に機能しているか？

財務分析は現在の財務活動を測定し改善点を発見するための経営ツールである。

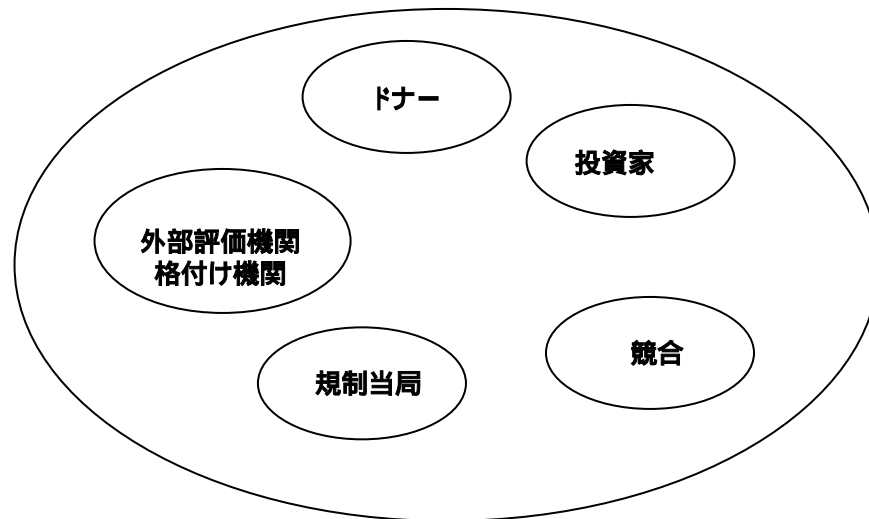
財務分析の利用者

内部の利用者



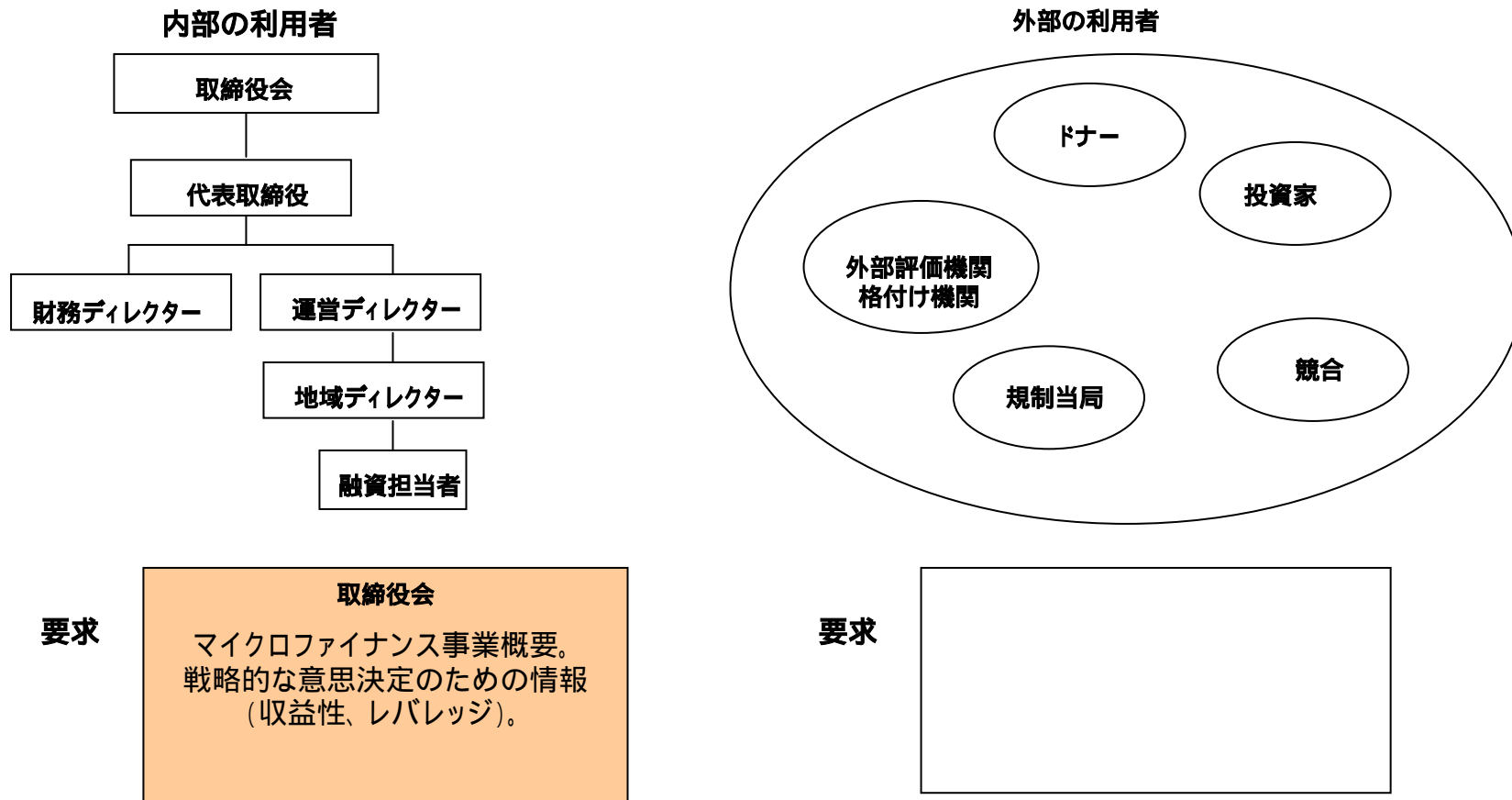
要求

外部の利用者

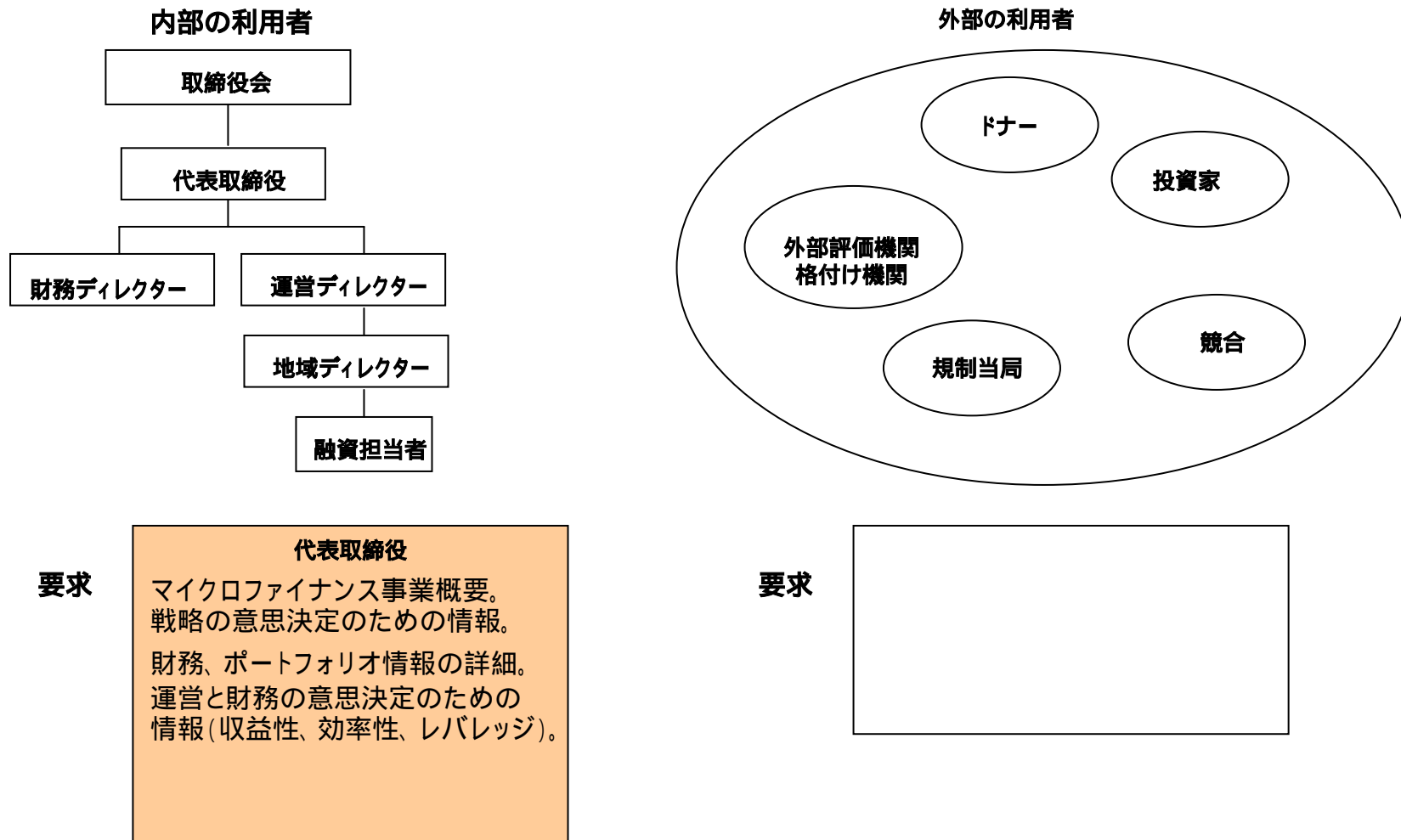


要求

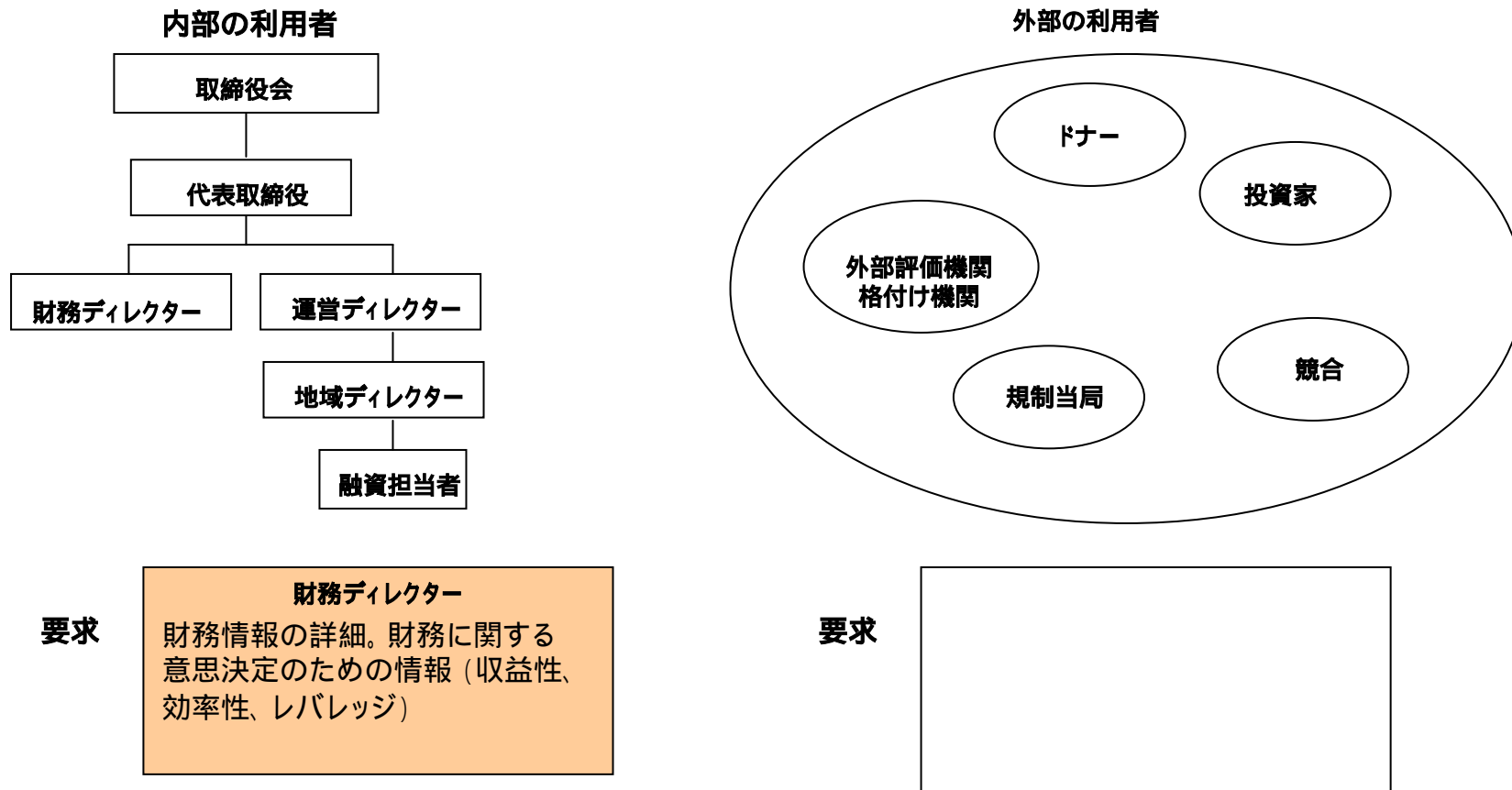
財務分析の利用者



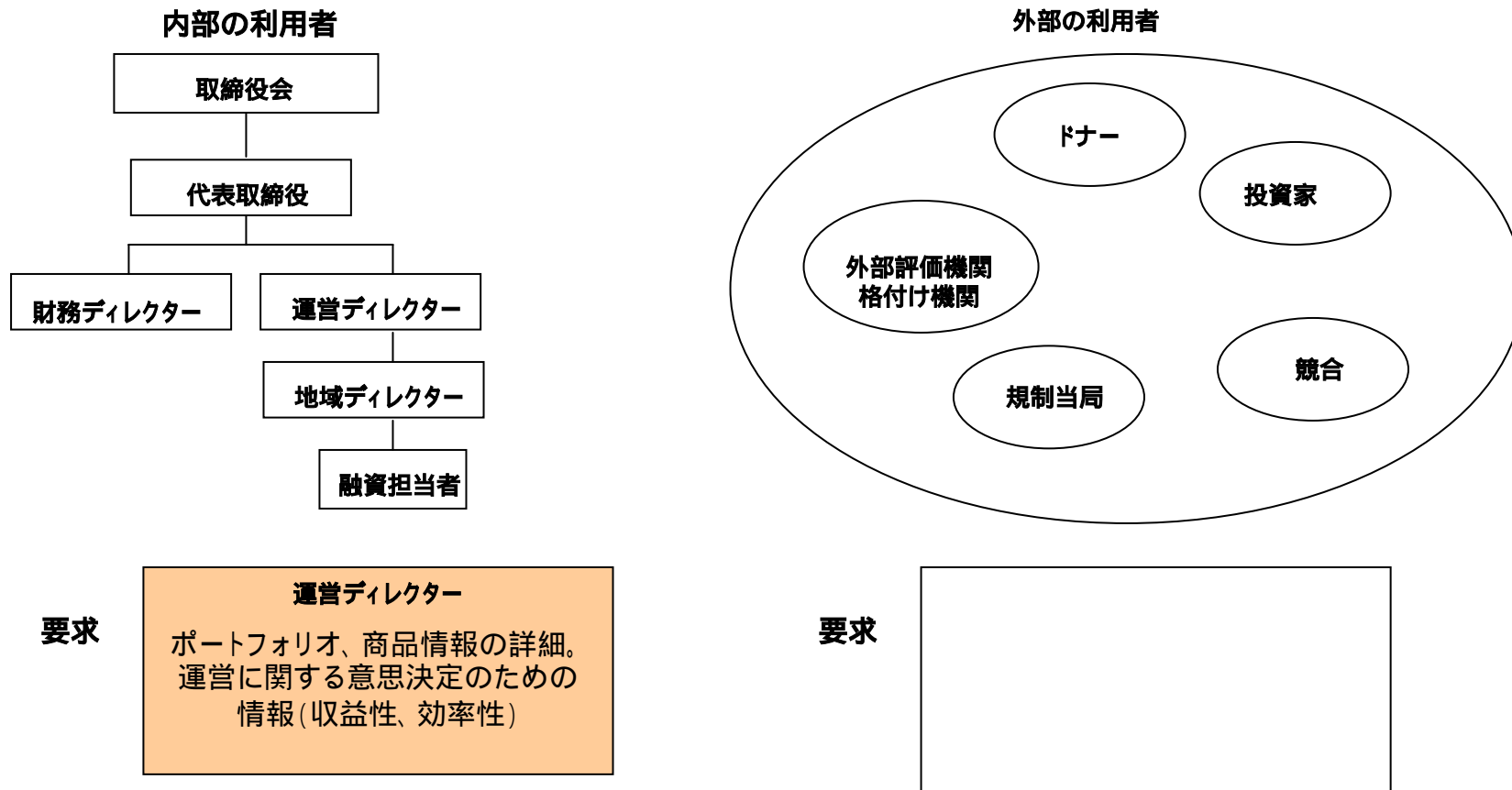
財務分析の利用者



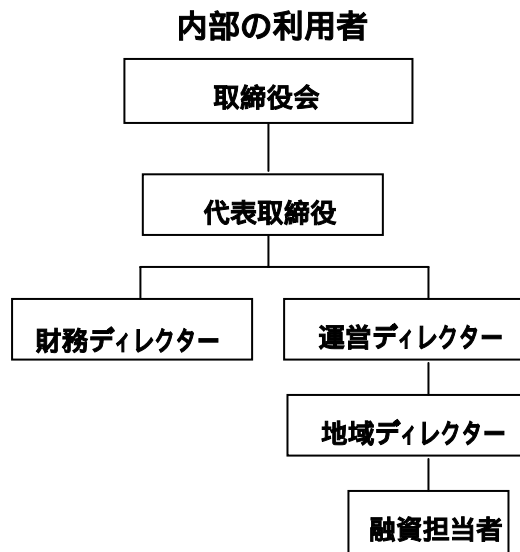
財務分析の利用者



財務分析の利用者



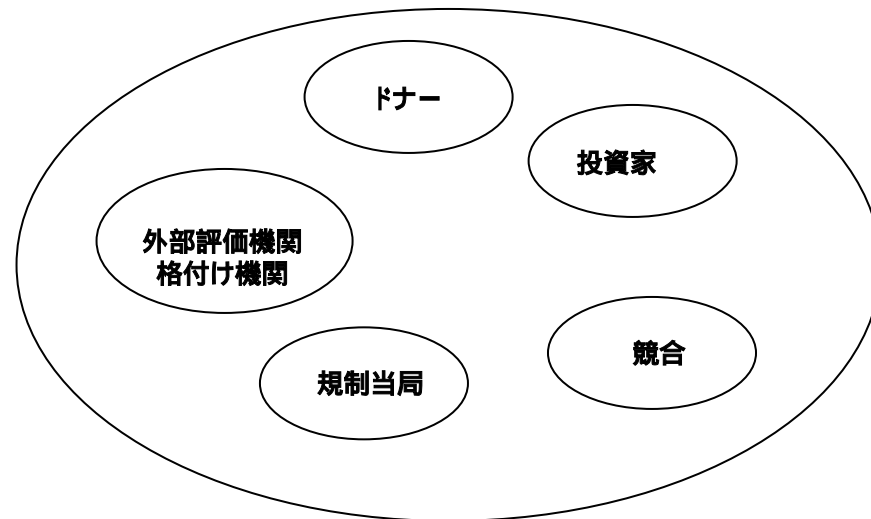
財務分析の利用者



要求

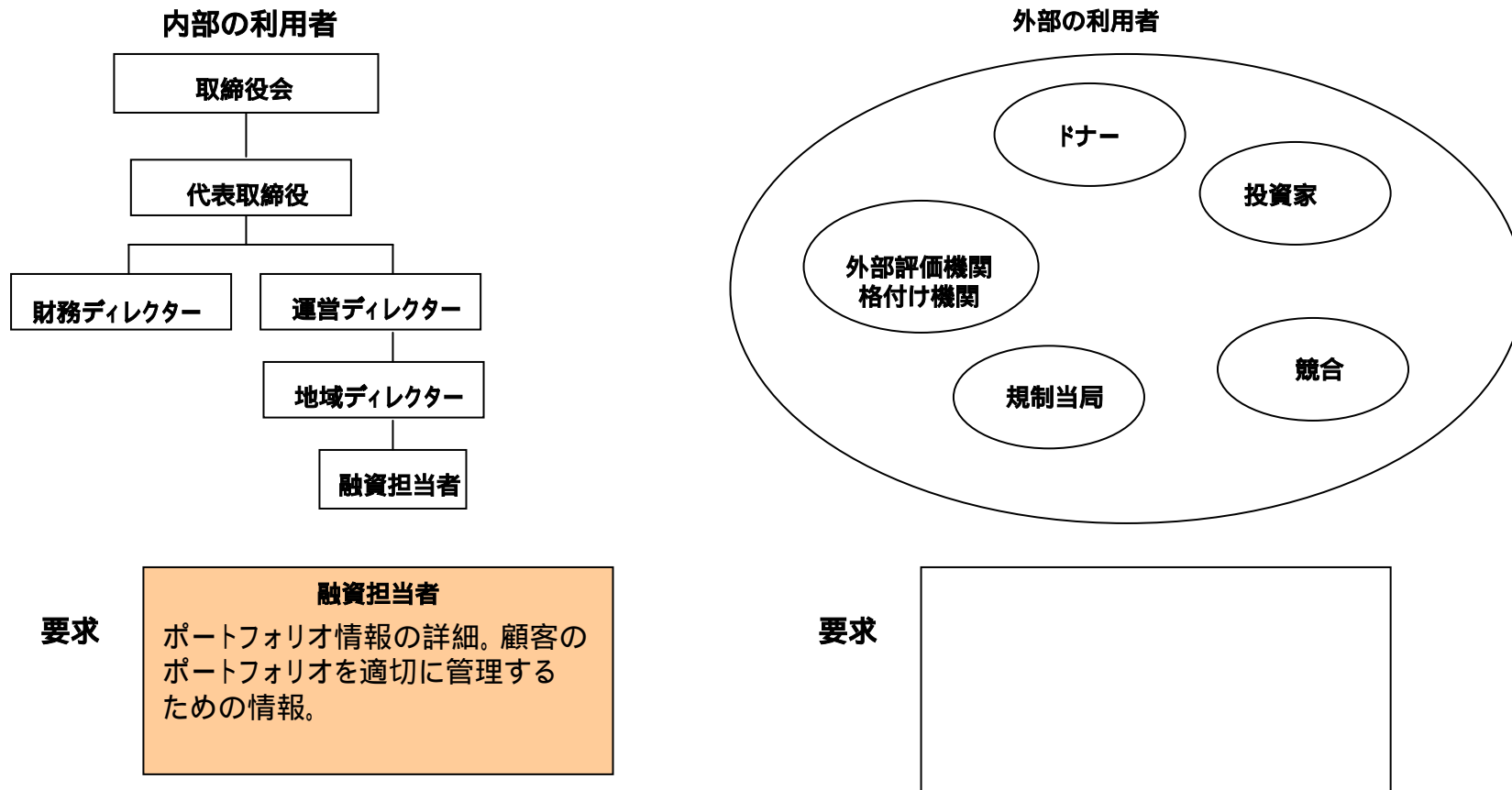
地域ディレクター
 ポートフォリオ、商品情報の詳細。
 地域レベルでの運営の意思決定の
 ための情報(地域別収益性、
 効率性)。

外部の利用者

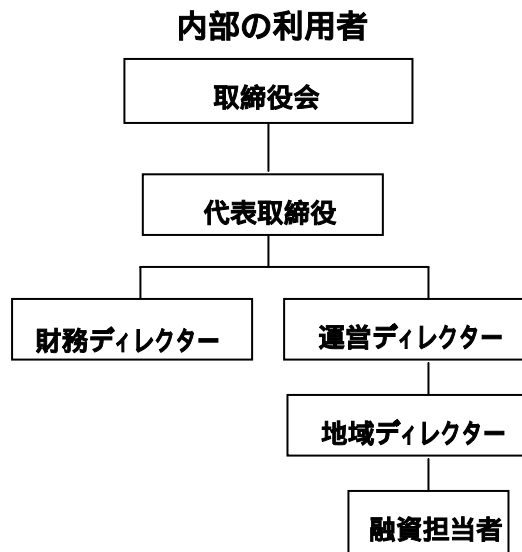


要求

財務分析の利用者



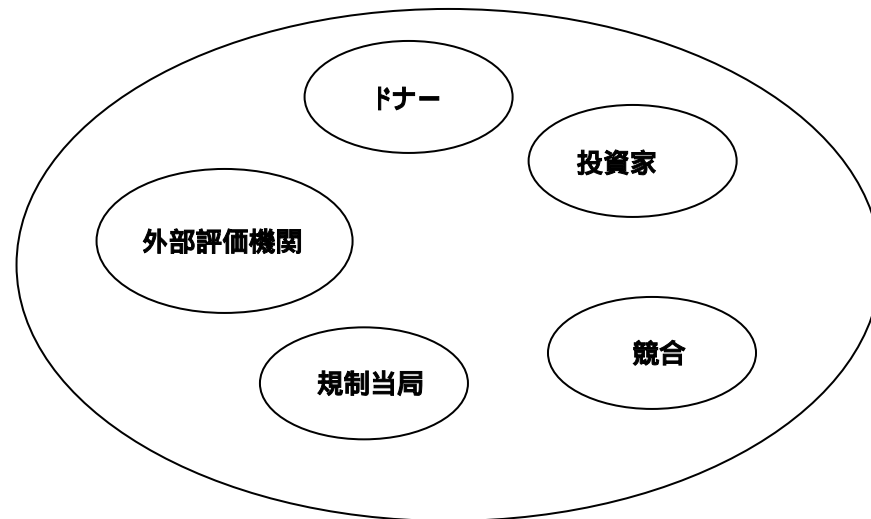
財務分析の利用者



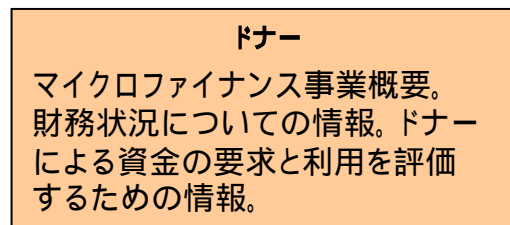
要求



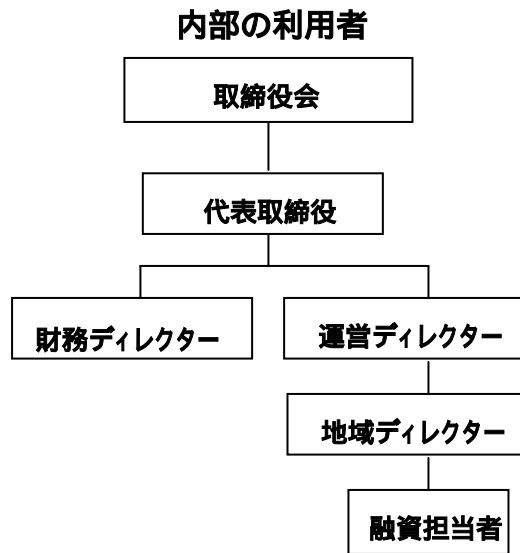
外部の利用者



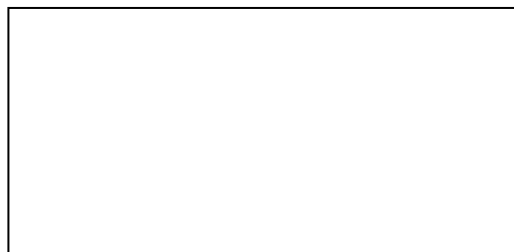
要求



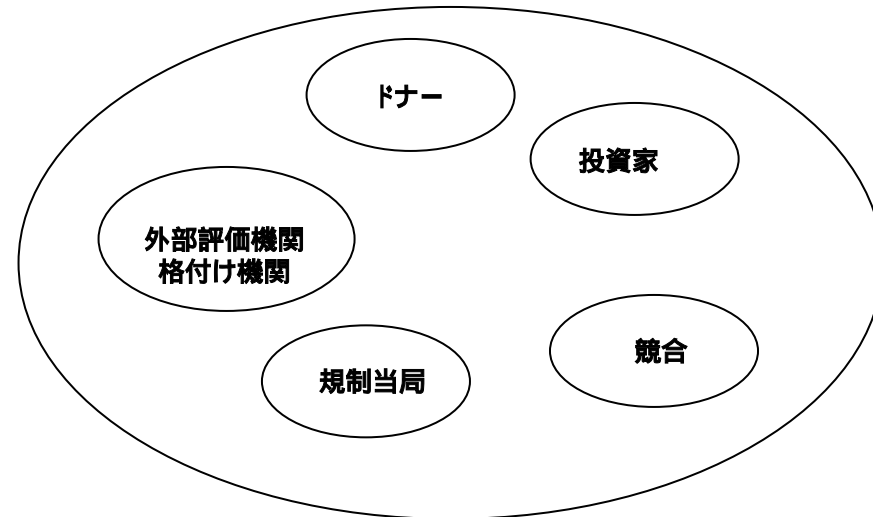
財務分析の利用者



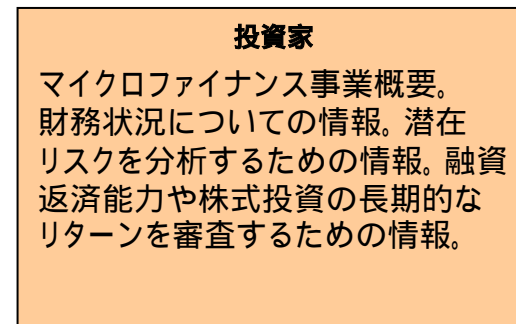
要求



外部の利用者

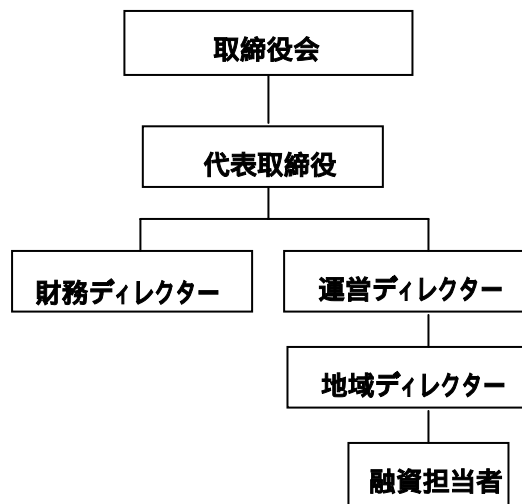


要求



財務分析の利用者

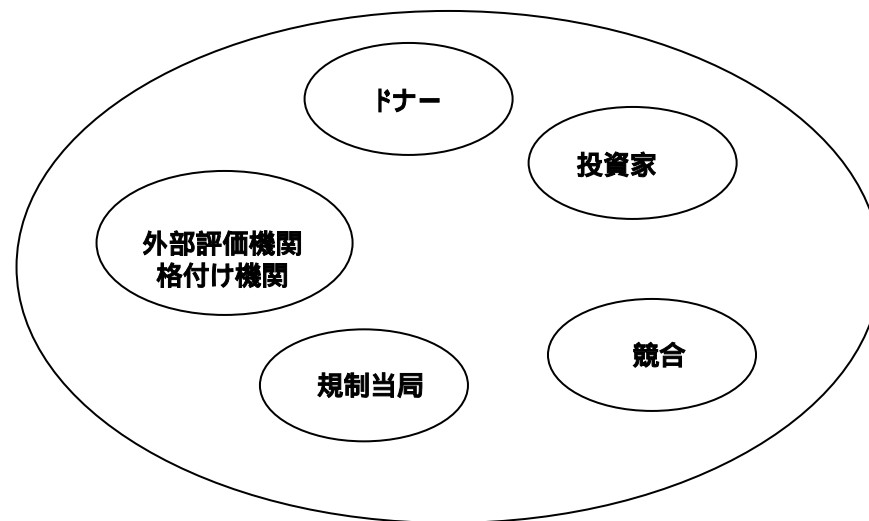
内部の利用者



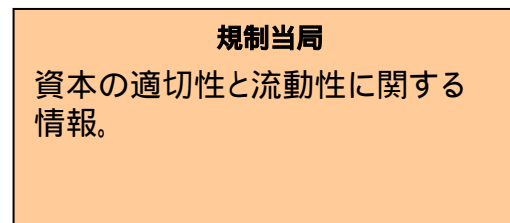
要求



外部の利用者

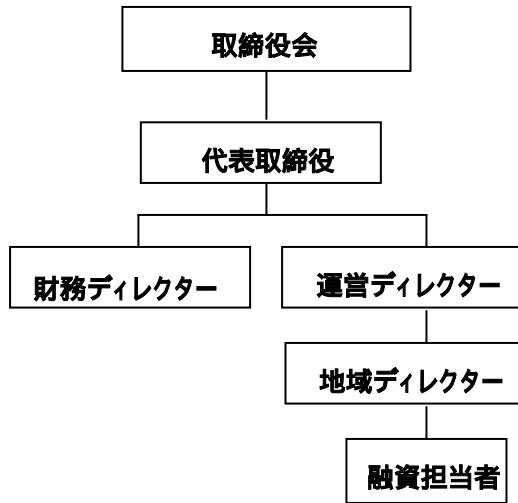


要求



財務分析の利用者

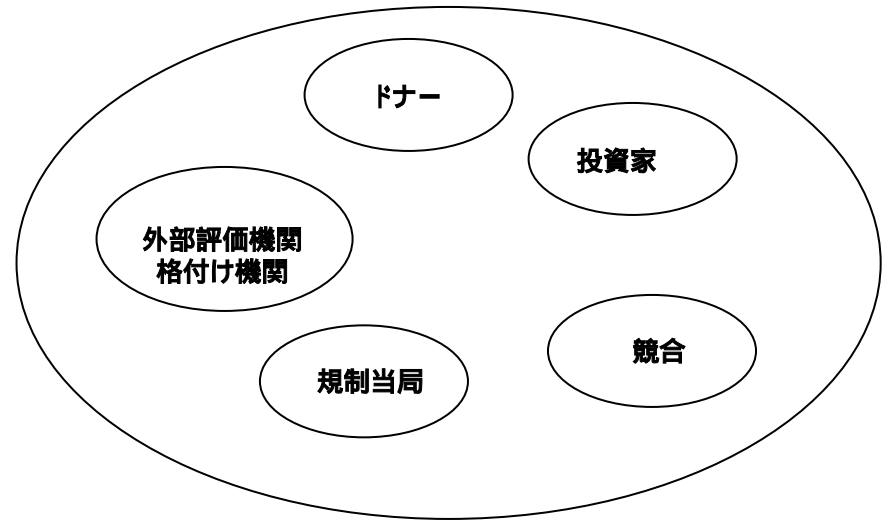
内部の利用者



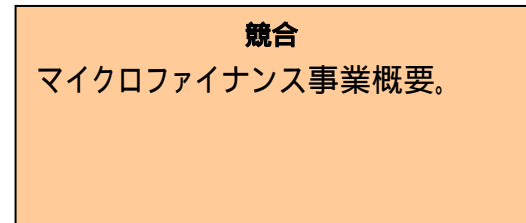
要求



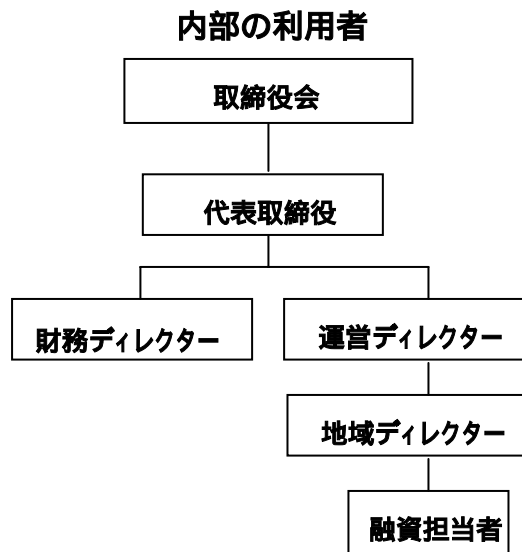
外部の利用者



要求



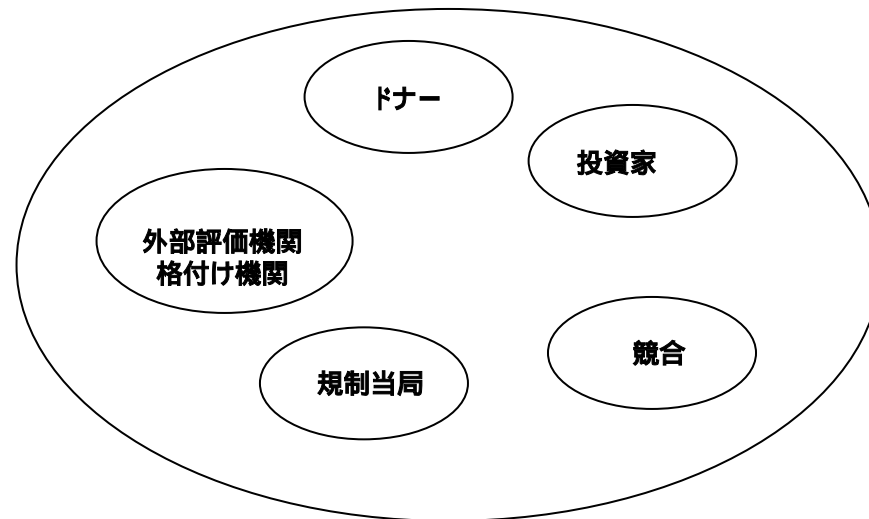
財務分析の利用者



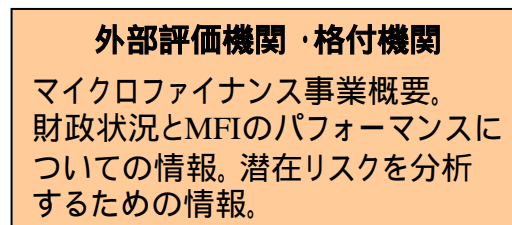
要求



外部の利用者



要求



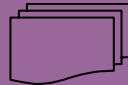
ツールとメソッド

財務分析は以下の情報を結合する:

情報源を...

...分析アプローチを利用して

財務諸表



組織構造の分析

- 主な収入源や支出先
- 資産と負債のマッチング/純資産のマッチング (短期対長期)

変化の分析

- 1年目 対 2年目
- 計画と実際の結果

ベンチマーキング

- ローカル・スタンダードとの比較
- 国際スタンダードとの比較

指標



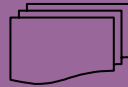
ツールとメソッド

財務分析は以下の情報を結合する:

情報源を...

...分析アプローチを利用して

財務諸表



指標



組織構造の分析

- 主な収入源や支出先
- 資産と負債マッチング/純資産のマッチング (短期対長期)

どのような支出が運営コストの上昇につながっているか？ 財政負担をカバーする資産を持つことができるか？

変化の分析

- 1年目 対 2年目
- 計画と現在の結果

ベンチマーキング

- ローカル・スタンダードの比較
- 国際スタンダードの比較

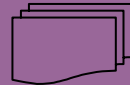
ツールとメソッド

財務分析は以下の情報を結合する:

情報源を...

...分析アプローチを利用して

財務諸表



組織構造の分析

- 主な収入源や支出先
- 資産と負債のマッチング/純資産のマッチング (短期対長期)

指標



変化の分析

- 1年目 対 2年目

前年度と比較して運営状況はどうか？現在の状況と今年度の計画した予算を比較して運営状況はどうか？

ベンチマーキング

- ローカル・スタンダードの比較
- 国際スタンダードの比較

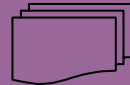
ツールとメソッド

財務分析は以下の情報を結合する:

情報源を...

...分析アプローチを利用して

財務諸表



組織構造の分析

- 主な収入源や支出先
- 資産と負債のマッチング/純資産のマッチング (短期対長期)

変化の分析

- 1年目 対 2年目
- 計画と現在の結果

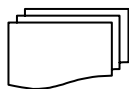
ベンチマーキング

- ローカル・スタンダードの比較
- 国際スタンダードの比較

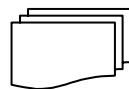
地域の他のMFIと比べて運営状況はどうか？(ミッションや事業活動地域によって状況は異なるので、必ずしも低いパフォーマンスによるものではない。)

情報源

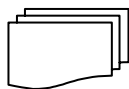
財務分析における報告書を総称して、**財務諸表**という。



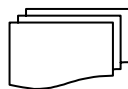
貸借対照表
(バランスシート)



損益計算書



ポートフォリオレポート



キャッシュフロー

ここでは上記4つの財務諸表に焦点を当てるが、総合的な財務分析を行うためには月次キャッシュフロー報告書のような他の文書も役立つ。

勘定科目一覧表

情報源を精査する前に、勘定科目一覧表でMFIの財務取引構造を把握しなければならない。

財務取引はバランスシート(資産、負債、純資産)の上では株式、損益計算書(収入、支出)ではフローとして分類される。

勘定科目一覧表は地域によっては法律や規則、税務、会計方針で義務付けられていることもある。

MFIのマネージャーとドナーは会計の仕組みを開示する必要がある。

情報開示の例として、商品別、支店別、資金源別の取引の開示がある。

勘定科目一覧表における寄付の扱いは高い透明性を維持する必要があり、現金による寄付は営業収益(損益計算書)や業務から生じる内部留保(バランスシート)から除外することが強く推奨される。

マルチサービス・プロバイダーからの財務レポート

経済的サービスと非経済的サービスの隔離

マルチサービス・プロバイダーは**マイクロファイナンスに加えて**教育、小規模事業支援、健康支援など社会的サービスを提供する組織です。

このような組織の鑑定科目一覧表ではサービスや事業ごとの資金移動が分類されなければならない。

マイクロファイナンス事業とその他の事業の違いを明らかにするため、**中核事業**(中心となるマイクロファイナンス事業)、**非中核事業**(マイクロファイナンス以外の事業)に分類することが推奨される。

マイクロファイナンス以外のサービスが事業全体の財政に大きな影響を与えている場合、それらに関する資金移動は以下のどちらかで記載される。

- 共通の財務諸表内で明らかに区別して記載する
- 完全に別な財務諸表を作成する

マイクロファイナンス以外のサービスが収入源に必須で、融資サービスの一部となっている場合、財務分析の際に財務諸表上のマルチ・サービスの分類は必要ない。

バランス・シート

バランスシートは会計期の終わりなど特定の時点における財務状況をまとめたものである。

バランスシートは組織の経済的資源とそれに関する説明を提示している。

総資産

=

負債

+

純資産

保有している資産と第3者から提供されている資産

収益を生み出すために資産がどのように投資されているか。
(融資ポートフォリオや金融投資など)

第3者が保有する資産。

これは借入金や顧客から受けた預金、取引業者へ支払う必要のある買掛金などの形をとっている。

資本、もしくは純資産

組合員、投資家、ドナーから得た資本、本年度や前年度以前の営業黒字を含む。

バランス・シート：一般的なフォーマット

総資産	負債と純資産
短期資産	負債
現金、当座預金	短期負債
短期金融資産	普通預金
貸付ローン・ポートフォリオ(ネット)	-強制預金
-貸付ローン・ポートフォリオ(グロス)	-任意預金
-貸倒損失引当金	短期定期預金
未払利息	短期借入金
その他の短期資産	-無償融資
	-商業融資
	その他の短期負債
	長期負債
長期資産	長期借入金
長期金融資産	-無償融資
純固定資産	-商業融資
その他の長期資産	その他の長期負債
	純資産
	払込資産
	寄付された資産
	内部留保(寄付を除く)
	-本年度
	-前年度以前
	積立金とその他の持分勘定

損益計算書

損益計算書は特定の期間におけるMFIの財務状態(フロー)を報告するものである。

損益計算書は収益と損失(ネット)を算出するために特定機関の収入と支出を記録している。

(収益 - 費用 = 純利益)。

損益計算書は組織の経済的資源とそれに関する説明を提示している。

収入

- 会計期において製品やサービスの売上げで得た金額
- 収益源の例:
 - 顧客への融資から得られる金利:
 - 融資やその他の金融サービスの手数料:
 - 銀行預金から得られる金利

費用

- 収益獲得の過程で費やされる製品やサービス提供のためのコスト
- 費用の例:
 - 融資や預金に対して支払われる金利コスト:
 - 賃金や一般費用などの運営コスト:
 - 融資ポートフォリオの融資損失

損益計算書：一般的なフォーマット

営業収入 (a)

融資の金利、手数料収入
 その他の金融サービスからの収入
 金融資産からの収入
 その他営業収入

営業費用 (b)

借入金に支払う金利と手数料
 預金に支払う金利と手数料
 金融サービスに関するその他の財政支出

税引前当期純利益 (c=a-b)

純貸倒準備金支出 (d)

当期純利益 (e=c-d)

営業支出 (f)

人件費
 事務費用

純営業収益 (g=e-f)

営業外収益 (h)
 営業外支出 (i)

税、寄付を除く純利益 (j=g+h-i)

所得税 (k)

寄付を除く純利益 (l=j-k)

寄付収入 (m)

寄付を含む純利益 (n=l+m)

MFIの業績を厳密に計算するため、営業外収益と寄付金を除いた純営業収益に注目しなければならない。その際、利益率に考慮する。

キャッシュフロー計算書

キャッシュフロー計算書はMFIがどう現金を入手し、その後どう利用されるかを表している。

この文書では概して営業や投資、融資活動におけるキャッシュフローを分類する。

営業活動	投資活動	融資活動
提供したサービス (事業)	将来の収益やキャッシュフローを得るためにかかる費用	オーナーから得た、またオーナーに返されたリソース 融資や、ドナーからの資金提供によって得たリソース

この文書は直接的手法、もしくは間接的手法で作成される。

直接法	間接法
総現金収入と総現金支出が純キャッシュフローと一致するように計算 (IASが推奨)	営業現金収入、支出の繰越金もしくは見越し金、そして投資、金融によるキャッシュフローの収益と損失を純キャッシュフローに一致するよう計算

ポートフォリオ報告書

ポートフォリオ報告書はMFIの主要な活動や融資に関する詳しい情報を提供する。

この報告書は、ポートフォリオの質に関するデータを、分析に利用できるような詳しいレベルで、**タイムリー、かつ正確**に提供するものである。

主な情報

貸付残高の件数と金額 (期末)
 通常融資と、スケジュールの変更や追加融資があった案件のポートフォリオの詳細
 期中に支払われた融資の件数と総額
 未払融資残高の平均
 未払支給額と未払融資残高
 期中に回収不能となっている融資の金額
 ポートフォリオの時系列分析
 (例: 1日～30日目、31日～60日目におけるポートフォリオ・アット・リスク)
 融資条件、担当者、預金口座、差引残高などに関する情報

MFIが預金サービスを提供する場合、預金サービス専用の報告書も財務分析に役立つ。

平均値の計算方法

いくつかの指標では平均値の計算が必要になる(例:資産平均値、純資産平均値、ポートフォリオ平均値)。

平均値は一般的に特定期間の財務フロー(収入と支出)を同期間の財務ストック(資産、純資産、ポートフォリオ)の金額に関連付ける比率で用いられる。

年間平均は期初めと期末価格の平均である。

$$P_{avg} = [(P_0 + P_1)/2]$$

期初と期末の残高の平均値は季節変動や資産の購入、売却のタイミングによって変化するため、分析を誤ることがある。

したがって融資ポートフォリオの指標は月次平均で算出されることがある。

サブ・ピリオドの平均の算出式は：

$$P_{avg} = (P_0 + P_1 + \dots + P_x) / (X + 1)$$

サンプル 1

マイクロシムは四半期報告で固定資産の結果が以下のようになった。四半期平均はいくらになるか。

2001年12月31日: 18,349

2002年3月30日: 19,001

2002年6月30日: 19,001

2002年9月30日: 20,405

2002年12月31日: 21,440

$P_{avg} = (18,349 + 19,001 + 19,001 + 20,405 + 21,440)$

5

$P_{avg} = 19,639$

年次計算

トレンドの把握や指標の計算のために、データは一定の期間(年次、隔年など)を設定しなければならない。

収支表から導き出されたマイクロファイナンスの指標は年次で提示する。
正確な収支の年次計算を算出するためには業務計画に基づいた季節性の分析や財務予測が必要となる。

計算の簡略化や数字の比較を目的とした年次報告の業界基準は以下の通り：

$$AA=[A * (12/M)]$$

AA= 年間総額

A= 一定期間の総額

M=その期間の月数

サンプル 2

マイクロシムは2000年度、寄付を抜いて33,316ドルの純収益があった。2001年第3四半期(9月)現在、経営陣は昨年と今年の成果を比較したいと考えている。本年度はこれまでに15,454ドルの純収益を上げた。

$$AA=15,454 * (12/9)$$

$$AA=20,605$$

マイクロシム2001年の純利益は2000年を下回ると予測される(寄付を除く)。

問題： 情報源

財務分析で重要な書類でないものはどれか。以下の選択肢から選びなさい。

- (a) 損益計算書
- (b) バランスシート
- (c) 製品説明書
- (d) キャッシュフロー
- (e) ポートフォリオ報告書

鑑定科目一覧表はなぜそれほど重要なのか。以下の選択肢から選びなさい。

- (a) 明確な構造で資金の動きが記録されていることを証明するため
- (b) MFIが法務、税務報告書のために必要な情報を記録していることを保証するため
- (c) その構造によって財務分析を簡略化または高度化するため
- (d) 上記すべて
- (e) 上記以外の理由

損益計算書は何を表しているか。以下の選択肢から選びなさい。

- (a) MFIが将来返済する負債額はどのくらいあるか
- (b) 顧客への融資総額
- (c) MFIが次の年に収益を得るかどうかが
- (d) 当期の収支
- (e) 当期の顧客数

運営助成金はどのように扱えばよいか。以下の選択肢から選びなさい。

- (a) マイクロファイナンスに関連しているため損益計算書の「財務サービスに関するその他の収益」に計上される
- (b) バランスシートのみで計上される
- (c) アナリストが損額を簡単に把握できるよう「寄付による収益」に明確に計上されるべきである
- (d) MFIが選んだ項目に計上される
- (e) キャッシュフロー報告書のみで計上される

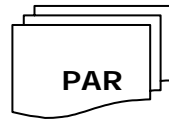
ポートフォリオ・クオリティ

MFIにとってポートフォリオは最も重要な資産であり、主な潜在リスクだとすると、**ポートフォリオ・クオリティは非常に重要である。**

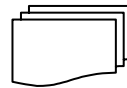
また、ポートフォリオをバックアップする担保を持たないMFIにとってポートフォリオ・クオリティをモニタリングすることはさらに重要である。

通常、MFIは日常の営業活動に従い、他の財務諸表などよりも頻繁、定期的にこれらのデータを報告する。

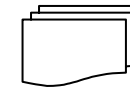
ポートフォリオ・クオリティに関する指標は数多く存在するが、このコースでは以下の3つに焦点を当てる：



ポートフォリオ・アット・リスク
(Portfolio at Risk)



貸倒償却率/ライト・オフ・レシオ
(Write-off ratio)



リスク・カバレッジ率

これらの指標は相互に関連しているために、すべての3つの指標は単独でなく、共に分析する。



ポートフォリオ・アット・リスク

D

ポートフォリオ・アット・リスクはポートフォリオ・クオリティの指標としては最も有効なもので、ポートフォリオの全体的なリスクを測る。

MFIIは期日を過ぎた返済や未払いの金額について懸念することが多い。これは過去に何が支払われていないかを測る指標である。もし顧客が支払いをしない場合、残りの融資不足額を危うくすると同時に将来未払いが生じた際に全体的な融資をリスクにさらすことになる。

F	<p>n日の返済遅れが生じている融資の貸付残高^(2,3)</p> $PAR_n^{(1)} = \frac{\text{ポートフォリオ貸付残高}}{\text{ポートフォリオ貸付残高}}$
---	--

- (1) “N”の期間は通常30日。90日は一般的ではない。
- (2) MFIIは“n”に1、15、30、90など適切な数を入れなければならない。他のMFIIと比較するためにPAR₃₀₋₃₆₅ or PAR₃₀₋₁₈₀など期間を期末に設定することも重要。
- (3) リススケジュール、もしくは融資の追加を行っているかどうかを、現在の返済履歴などにかかわらず記載する。これらの融資は健全な融資よりリスクが高いとみなされる。

E

T



ポートフォリオ・アット・リスク

D

ポートフォリオ
を測る。

MFIIは期
もし顧客

サンプル 3

マイクロシムのポートフォリオ・アット・リスクの比率を知りたい。ポートフォリオ・アット・リスクは他のMFIIと結果を比較できるようにその期間を31から365日の間に制限する。ポートフォリオ・アット・リスクは特定の期間におけるスナップショットである。

ポートフォリオデータの報告書を参照のこと。2000年12月31日、マイクロシムには31日から365日までの間で返済遅れがあった。これらの未払い額は99,760だった。ポートフォリオ・アット・リスクを計算するために、この金額を2000年12月31日の発行済みポートフォリオの総額で割ってみる。

F

$PAR_n = \frac{n\text{日の返済遅れが生じているローン貸付残高}}{\text{ポートフォリオ貸付残高}}$

$$PAR_{31-365} = 99,760 / 555,712 = 18\%$$

この結果の意味

マイクロシムのポートフォリオ・アット・リスクはPARが5%以下の成績の良いMFIIと比べて非常に高くなっている。この比率が非常に高いということはマイクロシムにポートフォリオの運営状況を知るために様々な質問をしなければいけないということを意味する。

ここで以後2年間のデータでポートフォリオ・アット・リスクを計算せよ。

全体的なリスク

標である。
こさらずことになる。

T PAR**回収不能時の方針**

MFIのPARも貸倒償却率と同時に分析し、その年のポートフォリオ損失と将来の損失可能性の両方を予測しなければなりません。これはあるMFIが180日後に回収不能認定を行うためPARが下がっても、回収不能認定をまったく行わず高いPARを維持するようなどころもあるからです。

返済頻度

PARは返済頻度と共に考慮しなければなりません。頻度が高ければ高いほど、ポートフォリオ・クオリティに深刻な問題が発生する可能性が高くなります。例えば、毎月返済の顧客は月に1度返済遅れが生じる可能性があります。返済が毎週だとすると月に4回起こる可能性があります。さらに一括返済であれば長い期間の最後に返済を行うため、返済遅れが生じることはありません。

ポートフォリオ成長率

もしt期間でポートフォリオが顕著に成長し、t+1期間までに返済の遅れがない場合、t期間のPARは誤りでポートフォリオ・クオリティを過剰に判断している可能性がある。この成長率は新しい資金の注入によるもの、もしくは一時的な影響によることがある。

一部の支払い

支払いを承認する際、MFIはまずペナルティを支払い、その後金利と元金を支払う。もしMFIがこの順番を守らない場合、実際のポートフォリオ・アット・リスクの評価は低くなっている。

リスケジュールとリファイナンスのポリシー


何らかの理由で融資がリスケジュールやリファイナンスされることがあるが、その主な理由は顧客が融資を決められた期間に返済できないことである。リファイナンスやリスケジュールされた融資は高いリスクを持っており、分析する際にポートフォリオ・クオリティの指標に含めるか含めないか明確にする必要があります。

保証人の質

ポートフォリオリスクの評価はポートフォリオ自体のみならず、返済が不可能な際に必要となる担保や保証人の質も含まれる。保証人がいない、もしくは簡単には保証人に返済を求められないケースもあります。また保証人はポートフォリオ・アット・リスクを緩和させるためのツールとしても有効です。

PAR 対 効率性

PARのポリシーを立てる際に、ポートフォリオ・クオリティを最高にするのみだけでなく、PARを向上させるためのコストも考慮しなければならず、0%のPARが必ずしも最善とは限らない。


 ライトオフ・レシオ

D

ライトオフ(回収不能融資の返済帳消し)率はポートフォリオの運営の質を明らかにするもので、これは一定期間に回収不能となったポートフォリオの割合を測ることによって可能となる。

この指標は過去の情報について示しており、現在のポートフォリオ・クオリティに言及していない。

この指標は会計結果を反映しているもので、必ずしもMFIの融資の損失度合いを表すものではない。ポートフォリオ・アット・リスクとライトオフ・レシオは緊密に関係している。

F


一定期間のライトオフ総額

$$\text{ライトオフ・レシオ} = \frac{\text{一定期間のライトオフ総額}}{\text{一定期間のポートフォリオ月間平均}^{(1)}}$$

- (1) この比率はある一定の期間における回収不能融資を含んでいるため、分母はその期間の平均をとる。一年間の間に多種のポートフォリオが発生するため、ここでは月次の平均で計算することを推奨している。

E

T


ライトオフ・レシオ

D

**ライトオフ(回収不能)
となったポートフォリオ**

この指標は過去の情報に基づいて算出される。
この指標は会計結果と
は緊密に関連している。

サンプル 4

以前に指摘したとおり、ポートフォリオ・アット・リスクとライトオフ・レシオは同時に分析することが重要である。同じ組織でもライトオフの方針によってポートフォリオ・アット・リスクが大きく変化することもある。PARの計算と違い、ライトオフ・レシオは特定されない一定期間で回収不能となった融資額を利用する。マイクロシムの場合には会計期間である1月1日から12月31日と設定する。

まず、ポートフォリオレポートで一年間の回収不能総額と未払いポートフォリオの月次平均のデータを抽出する。特定されない一定期間の融資回収不能額を分析するため、PARで利用される年度末の価格ではなく、月次平均を利用する。

回収不能

ライトオフ・レシオ

F

一定期間のライトオフ総額

ライトオフ・レシオ = $\frac{\text{一定期間のライトオフ総額}}{\text{一定期間のポートフォリオ月間平均}}$

ライトオフ・レシオ = $16,754/584,188 = 3\%$

マイクロシムは2000年にいくつかの融資において回収不能になった。マイクロシムは365日の返済遅延期間を待ち、その後融資を回収不能と認定する。

次に、以後2年間のデータでライトオフ・レシオを計算してください。

T ライトオフ・レシオ**回収不能の認定基準**

ライトオフ・レシオは融資回収不能の認定基準表を伴わなければならない。例えば、あるプログラムでは支払期日から何日経っているかとは関係なく回収が不可能と認定される一方で、その他のプログラムでは支払期限からX日(多くは180日か360日)経った場合に回収不能と認定される。

回収不能頻度


回収不能認定の際に特別な会計手順が存在するため、年度末まで回収不能と認定しないMFIもある。またライトオフの方針に基づき、回収不能基準に触れているすべての融資を毎月認定するものもある。より厳格なライトオフ方針を持つMFIは、実際の損失が他の組織より低い場合でも高いライトオフ・レシオを持つことがある。

担保用ファンド

多くのMFIは借り手の死亡などの融資が返済不能となる事態のために特別な資金を所持している。MFIは未払い融資を補填するため、これらの資金を特別な理由なしで利用することができる。このケースでライトオフの透明性が低い場合、ポートフォリオの実際の損失額を低く評価することとなる。

融資の回復

融資回復はライトオフ・レシオにおいて考慮されていない。よって回収不可能とされた融資をより多く回復させた場合には年次予想損失額よりも実際の損失額が低い場合がある。決算上の理由で帳簿からライトオフされた融資でも回収を行う必要がある。


 リスク・カバレッジ・レシオ

D

この指標はMFIによって定義されるポートフォリオ・アット・リスクが、一時の貸倒準備金によって補填される率を示したものである。

この比率はMFIが最悪のケースの際に貸倒準備金によってどの程度損失を補填できるかを表している。

貸倒準備金はポートフォリオ・クオリティに基づいて用意される。この準備金は損益計算書の支出部門に計上されバランスシートの準備金の項目に加えられる。この予測はしばしばポートフォリオの時間経過に関するレポートから算出できる。例えば30日～60日の支払い期限遅れの補填は10%と予測され、180日を越える返済遅れの補填は100%と予測される。

F


リスク・カバレッジ
レシオ =

貸倒準備金

PAR 日数

E

T


リスク・カバレッジ・レシオ

D

この指標はMFIによって定義されるポートフォリオ・アット・リスクが、一時の貸倒準備金によって補填される率を示したものである。

この比率はMFIの貸倒準備金は加えられる。この10%と予測され

サンプル 5

リスク・カバレッジ・レシオは支払いが遅れているすべての融資が返金されなかった場合、MFIが特別な準備金で損失を補填できる能力を示す指標である。

の準備金の項目に
遅れの補填は

ポートフォリオ・レポートのポートフォリオ・アット・リスク (PAR > 30日) を参考にし、バランスシートに記載されている貸倒準備金で割る。

F	リスク・カバレッジ レシオ =	$\frac{\text{貸倒準備金}}{\text{PAR}_{\text{日数}}}$
	リスク・カバレッジ・レシオ = 3,470 / 99,760 = 3%	

この比率は最低30日の支払いが遅延しているすべての融資が含まれている。数値は非常に低く、最悪のシナリオ下でマイクロシムは貸倒準備金から損失を3%しか補填できないことを示している。

ここで以後2年間のデータでリスク・カバレッジ・レシオを計算せよ。

リスク・カバレッジ・レシオ

準備金のタイプ

一般的にこの指標は、通常の貸倒準備金(例えば健全なポートフォリオに対して2%)やポートフォリオ・アット・リスクに基づいた準備金など、貸し倒れに対するすべての準備金に対応している。ある国では通常の貸倒準備金は資産準備として分類され、他方では資産控除として表される。ここではどちらも取り扱う。

ローカル・ルール

リスク・カバレッジ・レシオは地元の法律や健全性を促す規範によって一部規制される場合がある。それらは許容できる準備金の最低額または最高額を定めている。

担保のクオリティ

PARで指摘したように、ポートフォリオの現実的なリスクを分析することはすなわち、貸し倒れが起きたときに必要となる担保や保証の質を見ることである。いくつかのケースでは保証がない場合や簡単に保証を請求できない場合がある。その他のケースにおいて保証はリスク・カバレッジを行うための準備金の代用として効果的なツールとなる。

比較

この比率とポートフォリオ・アット・リスクとの関連性はない。例えば、2つのMFIのポートフォリオ・アット・リスクがPAR30-365日をとる場合、一つのMFIでは30-60日(リスクが低い)で計算され、もう一つは181-365日(リスクが高い)で計算されるときでも、両者は同じリスク・カバレッジ・レシオとなる。

問題: ポートフォリオ・クオリティ

ポートフォリオ・アット・リスクはどのような意味を持っているか。以下の選択肢から選びなさい。

- (a) 支払い期限が過ぎている返済金の総額
- (b) 最低X日の支払い期限切れの貸付融資総額
- (c) MFIがリスクの高い融資を行っているかどうか
- (d) 最悪のシナリオ下で、ローン・アット・リスクと貸倒準備金のカバーできる額の比率
- (e) 平均で返済遅れがどのくらいあるか

MFIのどのような要素がPARに影響を与えるか。以下の選択肢から選びなさい。

- (a) ポートフォリオのクオリティ
- (b) ライトオフの方針
- (c) リスケジュールやリファイナンスの方針
- (d) 融資の一部返済などの会計手順
- (e) 上記のすべて

ライトオフ・レシオはどのような意味を持っているか。以下の選択肢から選びなさい。

- (a) 返済の遅延日数の平均
- (b) MFIが失敗する可能性
- (c) ある期間の未払い融資の平均額とライトオフされた融資の総額
- (d) 最高のシナリオ下で次年度に返済遅れの融資がどのくらい返済されるか
- (e) 最悪のシナリオ下でローン・アット・リスクが貸し倒れ準備金によってどのくらい補填されるか

リスク・カバレッジ・レシオはどのような意味を持っているか。以下の選択肢から選びなさい。

- (a) 返済の遅延日数の平均
- (b) ライトオフすべき融資の総数
- (c) 最高のシナリオ下で次年度に返済遅れの融資がどのくらい返済されるか
- (d) 最悪のシナリオ下でローン・アット・リスクが貸し倒れ準備金によってどのくらい補填されるか
- (e) 返済される可能性のない融資

効率性と生産性

効率性と生産性の指標はMFIができるだけ多くの顧客に最小のコストでサービスを提供しているかを評価する。

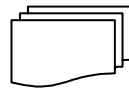
生産性の指標はインプット一単位に対してのアウトプットの量を示す。
効率性の指標はインプットにかかるコストとアウトプットの価格を示す。

このコースで利用される指標は以下に分類される：



スタッフの生産性率

スタッフと融資担当者の
生産性



費用対効果率

借り手一人当たりのコスト
運営コスト比率
その他のコスト比率

小規模起業家/IMF職員の写真



スタッフ/融資担当者の生産性

D

この指標はスタッフや融資担当者あたりの顧客の数を平均したものである。

融資担当者の定義は世界各地で様々なため、MFI同士の比較には全ての職員の生産性が利用される。

F	<p>融資担当者の 生産性 =</p> $\frac{\text{融資を受けている顧客の数}^{(1)}}{\text{融資担当者の数}}$
---	---

F	<p>スタッフの 生産性 =</p> $\frac{\text{融資を受けている顧客の数}^{(1)}}{\text{スタッフの数}}$
---	---

(1) ほとんどのMFIでは消費者金融は自動的に承認され、融資担当者やスタッフで手続きをする必要がないため、消費者金融の融資を受けている顧客を全体の顧客数から除くアナリストもいる。

E

T



スタッフ/融資担当者の生産性

D

この指標はスタ

融資担当者の

サンプル 6

この指標は融資担当者が一人当たり平均で何人の顧客にサービス提供をしているか、もしくは直接顧客にサービス提供していないスタッフも含め、スタッフ一人当たり平均で何人の顧客を持っているか理解するのに役立つ。

ポートフォリオ報告書で2000年の融資担当者数、スタッフ数、顧客数を参照のこと。

$$F \quad \text{融資担当者の生産性} = \frac{\text{融資を受けている顧客の数}}{\text{融資担当者数}}$$

$$F \quad \text{スタッフの生産性} = \frac{\text{融資を受けている顧客の数}}{\text{スタッフの数}}$$

$$\text{融資担当者の生産性} = 6,810/16 = 426$$

$$\text{スタッフの生産性} = 6,810/34 = 200$$

この結果の意味

この比率は平均で融資担当者が426名の顧客を持っていることを明らかにしている。スタッフの50%以下が融資担当者だとすると、スタッフの生産性は融資担当者の生産性の半分以下になる。

ここで以後2年間のデータでこれらの生産性を計算せよ。



スタッフ/融資担当者の生産性

T スタッフ/融資担当者の生産性

情報管理

融資担当者は事務手続き作業に多くの時間がかかり生産性を下げる恐れがある。MFIがそのような事務作業どの程度簡素化、コンピュータで自動化しているかはMFIの生産性に直接影響する。

運営スタッフと現場のスタッフ

各MFIごとのスタッフと融資担当者の比率の差は、MFIの構造において管理機能をどのくらい重視しているかを明らかにする。

預金の集金

いくつかのMFIでは融資担当者が預金を集金することがある。この場合、融資担当者は預金をしている顧客も抱えており、この顧客は生産性の比率に加算されないため、生産性が低くなる可能性がある。

手法や背景

生産性の低さは労働集約的な融資手法や、人口密度の高さ、その他の背景に影響されている場合がある。

滞納融資の管理

融資担当者はしばしば滞納している顧客に対してより多くの時間を使い、生産性を下げていることがある。そのため滞納金の額と滞納融資の管理に対する方針は職員の生産性に影響を与える。



借り手一人当たりのコスト

D この指標は借り手一人あたりの年間運営費用の比率を表したものです。

営業支出率とは異なり、平均融資金額に直接基づかない。

F	<p>借り手一人 当たりコスト = $\frac{\text{運営費用}^{(1)}}{\text{融資を受けている顧客の数}}$</p>
----------	---

(1) この費用は人件費と運営にかかる費用の総計で、融資の損失や資金調達の費用は含まれない。

E

T

営業支出率の分析も参照してください。



借り手一人当たりのコスト

D

この指
営業支

サンプル 7

この指標はある一定期間での、期末の借り手総人数に対しての運営コストの総額(人件費と一般的な費用)を算出している。

借り手総人数はポートフォリオ報告書(ケーススタディのレポート3)を、2000年の営業費用は損益計算書を参照のこと。

F

借り手一人
当たりコスト =

運営費用

融資を受けている顧客数

$$\text{借り手一人当たりコスト} = 73,289 / 6,810 = 11$$

この結果の意味

この指標は年度末にMFIが運営費用として顧客一人一人に対して11支払っているということを意味する。この指標を向上させるために、MFIは顧客へのサービスの効率性をさらに向上させるか、もしくはサービスの方法を変えなければならない。

ここで以降2年間の借り手一人当たりコストを計算せよ。



借り手一人当たりのコスト

借り手一人当たりのコスト

融資期間

この指標はMFIの長期的な平均実績に対して影響を持ちます。どのMFIにも共通のことだが、期間3ヶ月の融資を行うプログラムでは1年間に4回の融資を行う一方、期間12ヶ月のプログラムでは1年に1度の融資しか行わない。融資手続きに一定の費用がかかるとして、3ヶ月の融資を行うMFIは年度末に同じ顧客数を持っていても12ヶ月の融資を行うMFIより運営コストが高くなる。この問題を明確にするために、年度末時点で融資を受けている顧客の数のかわりに、返済を終えた融資あたりの費用を考慮するアナリストもいる。

(1) この費用は人件費と運営にかかる費用の総計で、融資の損失や資金調達の費用は含まれない。

E

T

営業支出率の分析も参照してください。



運営コスト比率

D

運営コスト比率は資金調達や融資損失費用を除いたMFIの全体的な運営効率を示す最も意味のある指標である。

この比率が低ければ低いほど、MFIの貸付残高1ドル当たりの効率性が高くなる。

F

運営支出⁽¹⁾

$$\text{運営コスト比率} = \frac{\text{運営支出}^{(1)}}{\text{貸付済ポートフォリオ月間平均}^{(2)}}$$

- (1) この費用は人件費と運営にかかる費用の総計で、融資の損失や資金調達の費用は含まれない。
- (2) この指標は一定期間の支出を見るため、分母はその期間の平均をとる。一年間の間に多種のポートフォリオが発生するため、ここでは月次の平均で計算することを推奨する。

E

T



運営コスト比率

D

運営コスト比率は

この比率が低けれ

サンプル 8

この効率性に関する指標は融資ポートフォリオで事務所の費用、人件費、物資などの日々の運営に平均でどの程度コストがかかっているかを判断するのに役立つ。

2000年の運営コストに関しては損益計算書を、貸付済みポートフォリオの月間平均についてはポートフォリオ報告書のデータを参照のこと。月間平均を利用するのはある一定の期間内のコストを分析するためである。

F

運営支出⁽¹⁾

運営コスト比率 =

貸付ポートフォリオ月間平均⁽²⁾

$$\text{運営コスト比率} = 73,289 / 584,188 = 13\%$$

この結果の意味するもの

この低い数値は一定期間の間ポートフォリオを維持するために、貸付総額のわずか13%の運営支出がかかっていることを表している。

ここで以降2年間のデータを使い運営コスト比率を計算せよ。

 運営コスト比率

T

運営コスト比率

融資サイズの平均

貸付残高の平均はMFIのミッションや市場環境、返済方針によって決定されている。融資の規模によって手続きにそれぞれ決められた費用がかかるため融資サイズの平均が運営効率に影響を及ぼすところもあり、どの規模の融資でもコストが均一なところでは同じコストでもより大きな融資ポートフォリオを構築できる。

規模の経済

規模の経済はこの指標に重要な影響を持っています。スタートアップ時期のMFIは小さなポートフォリオに集中するために、融資のたびに固定費用がかさみ運営コスト比率は高くなる恐れがある。ある時期になると、規模の経済を拡大させることができなくなり、運営コスト比率は抑制される。

職員の人件費

マイクロファイナンスは労働集約的な事業であるため、一般的に人件費は最も重要なコストである。人件費に関しては、経営陣と本部 対 融資担当者と現場職員の人件費比率に注目しなければならない。

その他事務費用

その他事務費用は地域の状況を考慮に入れて分析する。例えば、地方のプログラムであれば輸送費用がより多くかかる(車両の減価償却やガソリン)

預金

預金が可能なMFIでは追加的に営業支出がかかる。しかし預金に関するコストは融資コストよりも低くなる可能性がある。マイクロファイナンスセクターでは預金の運用にかかる費用を含めた運営コストを適切に評価するための追加指標を模索している。その議論における提案の一つは、処理済み預金平均と貸付済みポートフォリオ平均の合計総額を公式の分母に取り入れることである。



その他のコスト比率

D

運営コストに加え、MFIは平均貸付ポートフォリオに対して、その他の費用にかかる比率を算出する。

大まかな指標として、すべてのコスト指標を合計してポートフォリオの成果物(ポートフォリオによる収入、貸付済みポートフォリオの月間平均)と比較することもできる。

F

その他の
コスト比率 =

コスト

貸付ポートフォリオ月間平均⁽¹⁾

- (1) この指標は一定期間の支出を見るため、分母はその期間の平均をとる。一年間の間に多種のポートフォリオが発生するため、ここでは月次の平均で計算することを推奨する。



その他のコスト比率

D

運営コストに加え、MFIは平均貸付ポートフォリオに対して、その他の費用にかかる比率を算出する。

大まかな指
付済みポ

サンプル 9

この効率性指標は融資ポートフォリオの平均に対して特定の費用がどの程度の比率で使われたかを表している。例として、資金調達コストと貸付融資ポートフォリオの平均を比べてみる。

2000年の資金調達コストに関しては損益計算書を、貸付済みポートフォリオの月間平均についてはポートフォリオ報告書のデータを参照のこと。月間平均を利用するのはある一定の期間内のコストを分析するためである。

による収入、貸

F

その他の
コスト比率 =

コスト

貸付ポートフォリオ月間平均

その他のコスト比率 (資金調達コスト) = $59,028/584,188 = 10\%$ 。

この結果が示しているもの

この比率は一定期間の間ポートフォリオを維持するために、貸付総額のわずか10%の資金調達コストがかかっていることを表している。運営コスト指標に加えると、マイクロシムの主なコスト比率は23%であり、金利を効果的に設定すれば、この費用をカバーし、収益を生み出すことができる。

ここで以降2年間のデータを利用してコスト指標を計算せよ。

クイズ: 効率性と生産性

効率性の指標はどんな意味を持っているのか、以下の選択肢から選びなさい。

- (a) インプット(融資担当者やコストなど)が生み出すアウトプット(顧客やポートフォリオのサイズなど)の量
- (b) MFIが昨年度のコストをなぜカバーできたか、もしくはなぜできなかったか
- (c) MFIが他のMFIと比べてどのようにして多くの顧客にサービスを提供しているか
- (d) なぜMFIが他のMFIと比べて多くの顧客を獲得しているか
- (e) MFIがどれくらいの顧客にサービス提供できるか

融資担当者の生産性と職員の生産性の両方を分析するべきか、以下の選択肢から選びなさい。

- (a) いいえ、この2つは置き換え可能な比率である
- (b) はい、ドナーへどちらかの指標を選び報告するため、両方の指標が必要である
- (c) はい、スタッフ生産性が運営スタッフの占めるウエイトを測り、さらに融資担当者の生産性を加えて現場の取り扱い件数の判断に役立つ
- (d) いいえ、両方とも限定的な意味しかもっていないため、どちらも記録する必要はない
- (e) はい、どちらも簡単に計算できるため

借り手一人当たりコストが意味するものはなにか、以下の選択肢から選びなさい。

- (a) はじめて融資を受けた顧客にどのくらい費用がかかるか
- (b) その日に返金する一人の顧客に対して融資担当者が対応するためのコスト
- (c) 最善のシナリオ下で、次年度に同じ借り手にサービスを提供をする際のコスト
- (d) 最悪のシナリオ下で、次年度に同じ借り手にサービスを提供をする際のコスト
- (e) 年度末の融資顧客数に対する、同年度の営業支出

運営コスト比率が意味するものはなにか、以下の選択肢から選びなさい。

- (a) MFIが次年度の運営コストをまかなうためにいくら貯蓄しておかなければならないか
- (b) 昨年度、MFIがなぜ損失、もしくは収益を出したか
- (c) ある期間にライトオフされた融資の総額と貸付済みポートフォリオの平均の比率
- (d) ある期間に月間貸付済みポートフォリオと運営コストに利用した金額の比率
- (e) 以上のすべて

収益性と持続性

収益性指標は収益を生み出すために使われた資源と、実際に生み出された収益の関係を評価する。

リターン / 収益性 =

生み出された純利益

使われた資源

MFIIは事業を行うためにかかるコストのすべてを支払っているわけではないことがしばしばある。そのようなコストを測るために、財務アナリストは一般的に以下の項目を含む調整を加える。

- インフレ;
- 資金調達コスト;
- 現物寄付
- 貸倒準備金

様々な手法で収益性(またはリターン)が評価される
このコースでは以下を取り上げる:



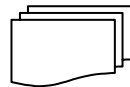
ポートフォリオによる成果物



資本収益率

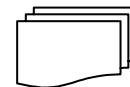


総資産利益率

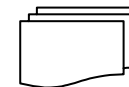


利益率

持続性の指標はMFIIの現在の収益性を計測する。これはMFIIが潜在的なコストを補填するのに必要なキャパシティを分析するためである。これには以下の指標が存在する:



運営自給率



財政自給率

収益性指標の調整

MF1の組織構造に関係なしに、長期間にわたりコストを補填できないプログラムは顧客にサービス提供を続けることはできない。

マイクロファイナンスでは助成金の寄付や隠れたコストが多く、それゆえMF1の収益性指標においてこれらのコストを考慮しないことを推奨する。

これらの調整は以下の目的で利用される：

- 内部管理の目的** 運営の長期的な持続性を判断する
- 他のMF1との比較** 財務諸表の構造や重要用語、重要指標の定義が組織ごとに異なるため

これらの調整は一般的には監査後の財務諸表には記録されない

インフレ調整

多くのバランスシートにおける市場価格は、インフレに影響され、時期によって変化する。

- **資産** 純固定資産(例えば建築物)などはインフレで上昇する。
- **株式** これまでの価格の動きと関係なく下落することもある。
- 以上より、**純粋なインフレはバランスシートの価格上昇と下落に影響する。**

F

**インフレ
調整** =

(株式資本平均値⁽¹⁾ - 固定資産平均値⁽¹⁾) × インフレ率

E

- (1) 時間ごとに変化する株価により価格変動が起こるため、この指標は平均で算出する。
一般的には期初と期末の価格を利用する。

- インフレ調整は収益性調整を計算するために純利益から差し引かれた費用である。
- ハイパーインフレ下の経済では、財務諸表の調整は既にその地域、もしくは国際的な会計基準に基づき調整されている場合もある。

インフレ調整

多くのバラン

サンプル 10

この調整はインフレのレベルによるMFIの損失を判断するために利用されます。

2000年のインフレ率についてはインフレ調整のページ、固定資産、株式資産の期初、期末の数値については調整レポートとバランスシートを参照のこと。さらに正確な推定値を算出するため、年間の平均値を利用していることに注意が必要である。

F

インフレ

調整 = (株式資産平均値 - 固定資産平均値) × インフレ率

$$\text{インフレ率} = [(126,015 + 171,440)/2 + (11,276 + 12,586)/2] * 5\% = 6,840$$

この結果が意味するもの

これはマイクロシムが1年間で時価総額で6,840を失っていることを意味している。この額は調整した数値の中で特別損失に計上される。

ここで以降2年間のデータを利用してインフレ調整を計算せよ。

資金調達コスト調整

一般的な市場金利以下の金利での貸付でも収益を上げているMFIも存在する。

MFIはそのような優遇利率で常に収益が上げられるわけではなく、助成金なしで事業を行うにはどのくらいコストがかかるか知る必要がある。そのため資金調達コスト調整に似た調整を行うアナリストもいる。

F

**資金調達
コスト調整** = (借入金の平均⁽¹⁾ × 借入金のシャドープライス⁽²⁾) – 借入金の手数料と金利

- (1) これらの借入金は融資を行うためのもので、本部事務所を購入するための貸付金などではない。
 (2) 潜在価格は借入金の市場価格調整後の価格です。

E

- 金利支出としてすでに支払い済みの市場コストは純利益から差し引かれる追加支出となる。
- 資産の寄付は市場レートで調整されないが、0%金利の融資は契約上の理由から借入金に計上され、同じ寄付でも調整後純利益に影響があるために、この調整指標は多くのアナリストにとって満足できるものではない。

資金調達コスト調整

サンプル 11

この調整指標はMFIが資金調達を市場レートでおこなわなければならない場合の本来のコストを測定するのに役立つ。

資金調達コストの市場レートと一般的な貸付のシャドープライスに関しては2000年の調整数値ページを参照。また、借入金残高の平均を計算する必要がある。貸付開始時のバランスは調整数値ページに、終了時のバランスはバランスシートに示される。短期貸付、長期貸付の両方を見なければならない。また、マイクロシムが2000年に借入金の金利や手数料に支払った金額も把握する必要がある。

F

$$\text{資金調達コスト調整} = (\text{借入金の平均}) \times (\text{借入金のシャドープライス}) - \text{借入金の手数料と金利}$$

$$\text{資金調達コスト調整} = [((487,625 + 535,741)/2) * 13\% - 44,619 = 21,900]$$

この結果が意味するもの

この計算はマイクロシムが融資活動のために借り入れた借入金を市場レートで返済した際に21,900を追加的に支払わなければならないことを意味している。この額は調整を行う際には特別支出に計上される。

ここで以降2年間のデータを利用して、資金調達コスト調整を計算せよ。

現物寄付の調整

現金での助成に加え、MFIは様々な形で現金ではない寄付(現物)を受けることがある。
例:

- **技術支援** ドナーやその他の組織から提供される;
- **ボランティア・スタッフ** プログラム運営には必ずしも必須でない;
- **第3者機関が代わりに費用を負担する** (家賃、トレーニングなど);
- **低価格、もしくは無償の資源提供** (建築物、車両など).

この調整は受け取った現物寄付の状態に基づいてそれぞれ設定される。

よって、これらの現物寄付の合計価値は純利益から差し引かれる支出に計上される。

ドナーの意向により、MFIを適切に運営するのに必要とされる以上の現物寄付が行われる場合がある。その場合、現物寄付の市場価格で評価しても適切ではなく、さらに低い金額での調整が必要となる。

現物寄付の調整

現金での助成に加え、MFIは様々な形で現金ではない寄付(現物)を受けることがある。
例えば:

—技術
—ボラン
—第三
—低価

サンプル 12

この調整指標はバランスシートや損益計算書に現れないが、MFIが必要とする現物寄付の価値を評価するのに役立つ。

受け取った現物寄付の内容については2000年の調整数値ページを参照のこと。

公式

$$\text{現物寄付} = 5,176$$

この調

よって、これ

これらの現物
ドナーの意向

この結果が意味するもの

これはマイクロシムが市場価格で5,176の品物やサービスの寄付を受けたことを表す。

ここで以降2年間のデータを利用してマイクロシムが受け取った現物寄付総額を計算せよ。

貸倒調整

MFIはそれぞれこれまでの活動から貸倒リスクを推計し、貸倒準備金を設定する。

貸倒準備金は以下の理由でMFIごとに違っている：

- 過去の貸倒と将来予測はMFIごとに異なる
- MFIは過去の貸倒と将来予測に基づいて必ずしも準備金の設定を行わない
- その地域、もしくは国際的な会計手順、会計基準の影響

MFI、評価機関、ドナー、ネットワーク、ベンチマーク機関(MIX MarketのMicroBanking Bulletinなど)などで評価する際に貸倒はすべてのMFIで標準化調整がされ、実際の貸倒パフォーマンスは考慮されない。以下はひとつの例であり、標準的なものはない。

F

計算方法のサンプル

架空の数値、パーセントは例として設定			
	予測%	PAR	総額
	A	B	=A*B
1～30日	0%	400,000	-
31～60日	10%	200,000	20,000
61～90日	50%	100,000	50,000
91～180日	75%	50,000	37,500
181～365日	100%	25,000	25,000
総額		775,000	132,500
貸付損失準備金支出			50,000
調整			82,500

貸倒調整

MFIはそ

貸倒準備

-過

-M

-そ

MFI、評価機
関機関(MIX
Bulletinなど
のMFIで標準
マンスは考慮
り、標準的な

サンプル 13

この調整は2つの目的で利用される。1つはMFIが一般的な貸倒準備方針を利用した際に、どの程度準備金を用意しなければならないか、2つ目は同じ計算方法でMFIごとに比較するためである。

以下の例は考えられるひとつの計算方法である。MFIはそれぞれ過去の成績や基準を利用する。

マイクロシムの例では2000年のポートフォリオ報告書のデータを参照し、以下のサンプルの比率を適用する。またマイクロシムが実際に計上した貸倒の年間総額を損益計算書から参照する。

	予測 %	PAR	総額
	A	B	=A*B
1～30日	0%	16,567	-
31～60日	10%	28,695	2,870
61～90日	50%	44,179	22,090
91～180日	75%	15,841	11,881
181～365日	100%	11,045	11,045
総額		116,327	47,885
貸付損失準備金支出			2,391
調整			45,494

この結果が意味するもの

これはマイクロシムが貸倒に非常に多くの支出をしなけりなかつたことを意味している。この調整は非常に大きなインパクトをもっている。

4つの調整額の総額は(6,840+21,900+5,176+45,494)=79,409

調整後純利益は(33,316-79,409)= -46,093。

ここで以降2年間の数値を利用して調整貸倒準備金を計算し、2年間のすべての調整額の総額を計算せよ。

ポートフォリオ・イールド

D

ポートフォリオ・イールドは実際にポートフォリオ関連で受け取った現金収入を計測したものである。

この指標は金利収入のみならず、融資手数料や顧客にとって大きな負担となるその他の収入も含む。

F

$$\text{ポートフォリオによる収益} = \frac{\text{受け取ったポートフォリオ収入}^{(1)}}{\text{貸付済みポートフォリオの月間平均}^{(2)}}$$

- (1) 何人かの専門家はこの数値には金利収入やその他の予想される収入を除いた、現金収入のみを含めることを薦めている。MFIによってはまったく集金されない金利収入も記録し、ポートフォリオによる成果を過大に報告するケースもある。
- (2) この指標は一定期間の支出を見るために、分母はその期間の平均をとる。一年間の間に多種のポートフォリオが発生するため、ここでは月次の平均で計算することを推奨している。

ポートフォリオ・イールド

D

ポートフォリ

サンプル 14

この比率は貸付残高が手数料や金利収入によって、1ドル当たりどの程度収入を得ているのか理解するのに役立つ。多くのマイクロファイナンスのアナリストはこの数値に経過利子を含めない。

この指標は金利、手数料収入については損益計算書を、月間貸付ポートフォリオについてはポートフォリオ報告書を参照のこと。一定期間に受け取った収益を分析するために月次平均の数値を利用する。

である。

入も含む。

F

ポートフォリオ
イールド

=

$$\frac{\text{受け取ったポートフォリオ収入}}{\text{貸付ポートフォリオの月間平均}}$$

$$\text{ポートフォリオ・イールド} = 162,858 / 584,188 = 28\%$$

この結果が意味するもの

この比率はポートフォリオが1年間に28%の収益を占めていることを示している。この指標と23%ある運営/財務コストを比較すると、ポートフォリオ・イールドがこの額をカバーできていることがわかる。融資損失コストはここには含まれていないことに注意。先ほど計算した融資損失調整は、ポートフォリオ・イールドで扱われない主な費用である。

ここで以降2年間のデータを利用してポートフォリオ・イールドを算出せよ。

ポートフォリオ・イールド

T ポートフォリオ・イールド

イールド・ギャップ

ポートフォリオ・イールドは予想された収入と実際に受け取った収入の間の「収益ギャップ」を算出するために金利と比較される。もしこの計算が経過利子を含む場合、実際の収入額を過大評価し、ポートフォリオ・クオリティの低さ、詐欺、会計ミスなどにより金利が支払われないといった問題を見えなくする。

レートの設定

レートの設定は競争原理だけでなく、地域の条例やドナーの方針に基づいて設定されている。これらの要因がポートフォリオ・イールドの増加を妨げる恐れがある。

- (1) 何人かの専門家はこの数値には金利収入やその他の予想される収入を除いた、現金収入のみを含めることを薦めている。MFIによってはまったく集金されない金利収入も記録し、ポートフォリオによる成果を過大に報告するケースもある。
- (2) この指標は一定期間の支出を見るために、分母はその期間の平均をとる。一年間の間に多種のポートフォリオが発生するため、ここでは月次の平均で計算することを推奨している。

E

T



総資産利益率

D

総資産利益率はMFIが保有している資産総額によって純利益を生み出す能力を評価するのに役立つ。

特定の資産(融資ポートフォリオ、金融投資)は直接収入を生み出すが、収入を生み出さない資産もある(現金、固定資産)。

資産収益率は、MFIの純利益、資産配分の収益目的部分、非収益目的部分を導き出すMFIの収入・支出構造の一部である。
この指標が調整なしで分析される場合、MFIの財務諸表をそのまま利用し、調整をする場合、これまで解説してきた調整後の数値を使用する。

F	<p>税、寄付を含まない純営業収益</p> <p>総資産利益率 = $\frac{\text{平均資産}}$</p>
---	---

F	<p>調整後 税、寄付を含まない調整後純営業収益</p> <p>総資産利益率 = $\frac{\text{平均資産}}$</p>
---	--

E

T



総資産利益率

D

総資産利益率

特定の資産
資産収益率
この指標が

サンプル 15

これらの主な指標はMFIの資産がどのくらい「生産的」であるかを知るのに役立つ。

寄付と所得税を差し引いた純収益については損益計算書で、調整後純利益についてはサンプル10、11、12、13で、開始時のアセットバランスについては追加情報で、クローズ時のアセットバランスについてはバランスシートで、それぞれ参照する。

F

$$\text{総資産利益率} = \frac{\text{税、寄付を含まない純利益}}{\text{平均資産}}$$

F

$$\text{調整後総資産利益率} = \frac{\text{税、寄付を含まない調整後純利益}}{\text{平均資産}}$$

$$\text{総資産利益率} = (33,316-0)/(910,213+967,429)/2 = 1\%$$

$$\text{調整後総資産利益率} = (-46,903-0)/(910,213+967,429)/2 = -1\%$$

この結果が意味するもの

この数値は平均で資産が1%、調整後で-1%の収益を生むことを意味する。これはマイクロシムの資産が調整前では多少なりとも生産的であるが、調整後ではそうではないことを表している。

ここで以降2年間のデータを利用して資産収益率と調整後の資産収益率を計算せよ。

役立つ。

する。



総資産利益率

総資産利益率

収益性を生み出す支出と収益

純利益を利用したMFIの収益性の指標は主に以下の要素によって決定付けられる：

- 1) 金融商品の効果的な金利設定
- 2) 株価減価などの現金でないものを含む営業支出
- 3) 金融手数料
- 4) 税金

これはまた上記の資産分配によるものである。

成熟度

MFIの収益性はその成熟度に大きく依存する。新しいマイクロファイナンス活動をスタートするために大きな費用を負担していても、その段階で一定の規模の経済に到達していないかもしれない。

ミッションと手法

MFIのミッションと融資手法、そしてターゲット人口に対する成果は収益性に大きな影響を与える。特定の顧客と融資手法はその他のものより著しく多くのコストがかかることがある。

運営環境

人口密度やインフラなどといったMFIの運営環境もコストを決定する要素となる。

競合

競合との競争が激しければ激しいほど金利下落の圧力は強く、ポートフォリオのもたらす収益も低くなる。



ROE 資本収益率

D

資本収益率は、潜在的な投資家が、MFIの株価を上昇させる能力を評価し、他の投資対象と比較するのに役立つ。

この指標は資本収益率とは違い、債権を評価に含まない。

マイクロファイナンスでは、MFIの特別な株式取引の環境(殆どのケースは投資リターンの期待なしに寄付される)から、資本収益率は伝統的な財務分析ほど重要視されない。

この指標が調整なしで分析される場合、MFIの財務諸表をそのまま利用し、調整をする場合、これまで解説してきた調整後の数値を使用する。

F	$\text{資本収益率} = \frac{\text{税、寄付を含まない純営業収益}}{\text{資本(平均)}}$
F	$\text{調整後資本収益率} = \frac{\text{税、寄付を含まない調整後純営業収益}}{\text{資本(平均)}}$

サンプル 16

ROE

資本収益

この指標はMFIの株式投資がどの程度効果的かを評価する。

損失計算書の寄付・税金控除前純収益、サンプル10、11、12、13の調整後純収益、加えて開始時の株式バランスとクローズ時の株式バランスを参照。

D

資本収益率は、

この指標は資本収益

マイクロファイナンス
分析ほど重要視され
この指標が調整なしで

F

資本
収益率 =

税、寄付を含む純営業利益

資本(平均)

F

調整後
資本
収益率

税、寄付を含む調整後純営業利益

資本(平均)

$$\text{資本収益率} = (33,316-0)/(126,015+171,440)/2 = 6\%$$

$$\text{調整後資本収益率} = (-46,903-0)/(126,015+171,440)/2 = -8\%$$

この結果が意味するもの

この指標はマイクロシムの株式が調整前で6%の収益を出し、調整後の数値では-8%のマイナスリターンを出していることを意味している。これはマイクロシムの株式が調整前ベースだと生産的であるが、もしマイクロシムがすべて市場価格で支払いを行わなければいけない場合、この投資は損失を生むことを意味している。

ここで以降2年間のデータを利用して資本収益率と調整後資本収益率を計算せよ。

立つ。

本伝統的な財務



資本収益率

資本収益率

規制制度

MFIの規制制度はMFIのミッションのみならず、その地域の法制度に基づいて行われる。多くのケースでMFIの株式は顧客メンバーや地域住民のみに保有が制限されている。

成熟度

MFIはドナーの方針や地域の法制度によって、株式の寄付や金利0%の優遇利率での融資という形で資金を受けることがある。株式によって資金を受けるよりも、0%の金利で同じ額を受け取る場合のほうが高い資本収益率を得ることができる。

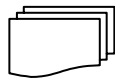
資本収益率のヒント欄を参照

F

調整後
資本収益率

=

税、寄付を含む調整後純営業収益
資本(平均)



利益率

D

利益率はすべての運営費用、融資損失、財政コストを差し引いた営業収益の比率の指標である。

この指標はMFIが収入1ドル当たりに対して純収益をどれだけ生み出しているかを評価するのに役立つ。

F

利益率 =

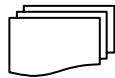
寄付を含めた純営業収益

営業収益⁽¹⁾

(1) この営業収益はマイクロファイナンス活動や短期的な投資に関連した財務収益も含まれる。

E

資本収益率のヒント欄を参照。



利益率

D

利益率

この指標

サンプル 17

この指標はマイクロシムが収入1ドル当たりどのくらい利益を出しているか評価するのに役立つ。

財務収益と寄付込みの純利益については損益計算書を参照のこと。

である。

るのに役立つ。

F

利益率 =

寄付を含む純営業収益

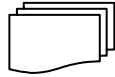
営業収益

$$\text{利益率} = 33,316 / 168,024 = 20\%$$

この結果が意味するもの

この指標はマイクロシムが受け取った1ドルに対し、マイクロシムは20セントを利益として保有することを意味している。これは調整後指標のような隠れたコストに対する考慮は行っていない。

次に、以降2年間のデータを利用して利益率を計算せよ。



運営自給率

D 運営自給率は営業支出をMFIがカバーできる能力を測る指標である。

調整前ベースで100%を超える数値は営業支出をすべてカバーしていることを示している。

この指標にはマイクロファイナンス運営に欠かせない貸倒準備金のための費用をすべて加えることを勧める。

F

運営自給率 =

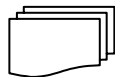
営業収益

財政支出 + 貸倒準備金支出 + 営業支出

E

収支構造

運営自給率を評価する際に、どのMFIがコストをカバーできているかだけでなく、どのようにカバーしているか、収入が格別に高いかどうか、将来コスト構造をどう変えていけるかも見るのが重要となる。



運営自給率

D

運営自給率は営業

調整前ベースで10

この指標にはマイクロ

サンプル 18

この指標はMFIがどのくらい営業支出をカバーできるかを評価する指標である。

公式に入る数値は損益計算書を参照。

F

$$\text{運営自給率} = \frac{\text{営業収益}}{\text{財政支出} + \text{貸倒準備金支出} + \text{営業支出}}$$

$$\text{運営自給率} = 168,024 / (59,028 + 2,391 + 73,289) = 125\%$$

この結果が意味するもの

この指標はマイクロシムが25%の余裕を持ちながら現在の営業支出をカバーできていることを示している。

次に、以降2年間のデータを利用して運営自給率を計算せよ。



財政自給率

D

財政自給率はMFIが市場価格の動きの中で営業支出をまかなうことができる能力である。

これはMFIが実際に営業支出として支払った金額をベースに営業支出をまかなう能力を評価するため、運営自給率とは異なる。

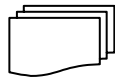
F

$$\text{財政自給率} = \frac{\text{調整後営業収益}}{\text{調整後財政支出} + \text{調整後貸倒準備金支出} + \text{調整後営業支出}}$$

E

調整環境

営業支出での調整レベルは調整後純収益に大きな影響を与える。よってこの指標を分析する際には運営自給率と比較し、調整後の数値のインパクトの大きさを見る必要がある。



財政自給率

D

財政自給率はMF

これはMFIが実際
なっている。

サンプル 19

この指標は実際に支払った物資の購入、サービス、財務などを市場価格で測った営業支出がMFIでどの程度まかなえているか測り、貸倒に対しての準備金も現実的な額を判断している。

この公式に入れる数値は損益計算書とサンプル10、11、12、13の調整後数値を参照してください。

F

財政自給率 =

調整後営業収益

$$\frac{\text{調整後営業収益}}{\text{調整後財政支出} + \text{調整後貸倒準備金支出} + \text{調整後営業支出}}$$

$$\text{財政自給率} = 168,024 / (59,028 + 2,391 + 73,289 + 79,409) = 78\%$$

この結果が意味するもの

この指標はマイクロシムが隠れたコストも含めたコストの78%をまかなっていることを示している。

ここで以降2年間のデータを利用して財政自給率を計算せよ。

異

問題：収益性の持続性

マイクロファイナンスの中で一般的に調整が行われないものはどれか、以下の選択肢から選びなさい。

- (a) 資金調達コスト
- (b) 貸倒準備金
- (c) 利益
- (d) インフレ
- (e) 現物寄付

収益性とは何を意味しているか、以下の選択肢から選びなさい。

- (a) MFIは収益を上げる組織ではないのでマイクロファイナンスには関係がない
- (b) MFIが融資を支払う際にどのくらい効率的かを測定する指標
- (c) 収益を生むために使われた資源と実際に生み出された収益の関係性を測定する指標
- (d) MFIがどの程度上手に運営されているかどうかを測定する指標
- (e) 顧客が多く支払いすぎているかどうかを示す指標

なぜマイクロファイナンスのアナリストはMFIの財務成績に調整をかけるのか、以下の選択肢から選びなさい。

- (a) MFI間で比較できるように標準化するため
- (b) 長期的なMFIの財政の健全度を明確にするため
- (c) 運営の隠れたコストを測定するため
- (d) MFIがドナーの支援なしにコストをまかなえるかどうかを知るため
- (e) 上記すべて

財政自給率と、運営自給率はどのように違うか、以下の選択肢から選びなさい。

- (a) 財政自給率は特別な調整をかけ運営自給率では考慮されない隠れたコストを加えている
- (b) 財政自給率は財政コストだけを含み、運営自給率はすべてのコストを含んでいる
- (c) 同じ指標だが、2つの名前がある
- (d) 運営自給率は最悪のシナリオに基づき、財政自給率は最高のシナリオに基づいている
- (e) 財政自給率は非常に貧しい顧客を含んでいない